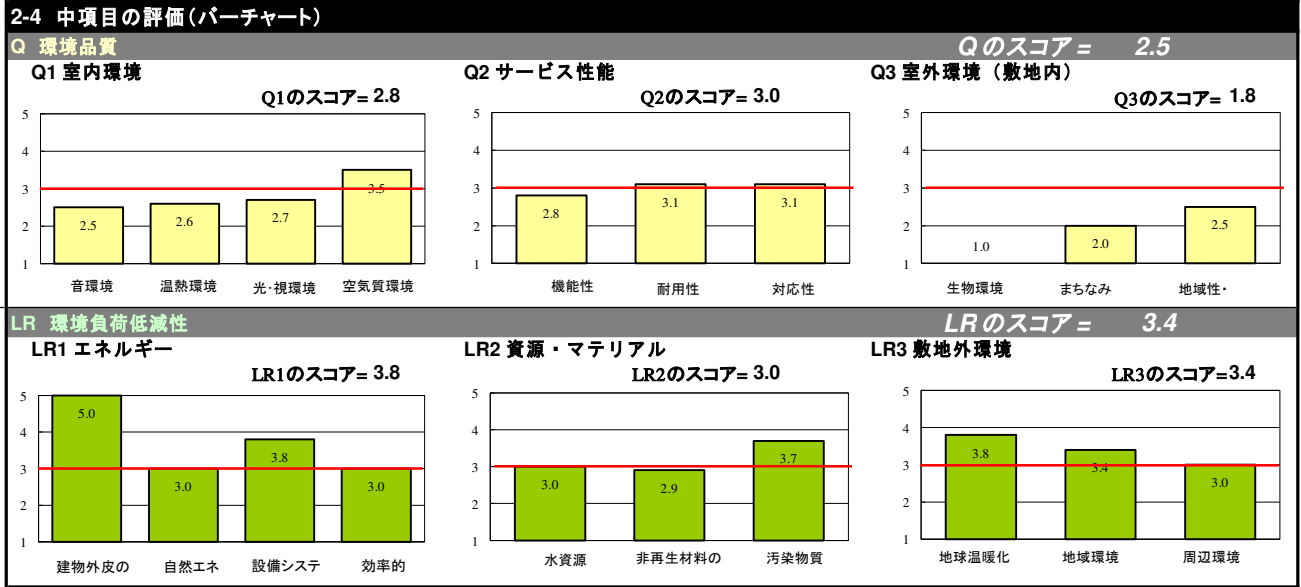
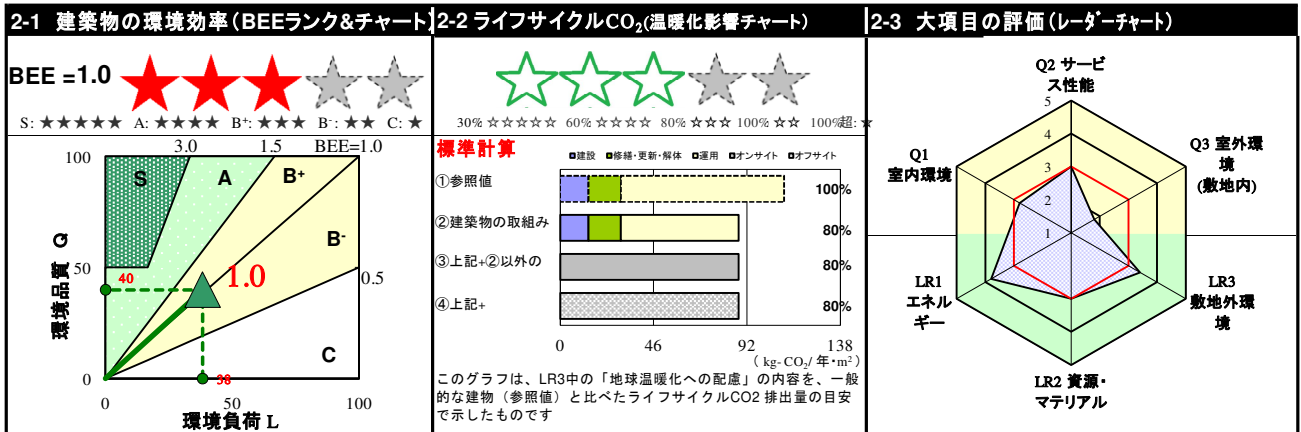


CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	医療法人(仮称)法人本部棟新築工	階数	地上5F
建設地	大阪府東大阪市弥生町	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	50人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,940時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年4月 予定	評価の実施日	2023年2月16日
敷地面積	1,145 m ²	作成者	深尾 元詞
建築面積	467 m ²	確認日	2023年2月16日
延床面積	2,222 m ²	確認者	深尾 元詞



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
鉄骨造5階建ての事務所である。室内環境は使用者にとって快適な空間となるよう換気量の確保などの配慮を行った。断熱性能や省エネ性能などの向上を図り、環境に配慮した建築物とした。		特になし。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
内装はF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用したうえで十分な換気量を確保し、快適な室内空気環境となるよう計画した。	内装や配管には太陽年果の長い材料を採用し、維持管理・更新性に配慮した。	敷地内ではできる限り緑化を行い、良好な緑地を形成し暑熱環境緩和に努めた。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
断熱性能を確保し、設備LED等の高効率設備を採用することで省エネ性能を高めた。	OAフロア等を採用し、解体時などの分別容易性やリサイクルに配慮した計画とした。	ライフサイクルCO ₂ : 80% 燃焼機器を使用しない計画とし、大気汚染の防止に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】	建物名称	医療法人(仮称)法人本部棟新築工事					
	建設地	大阪府東大阪市弥生町					
	用途/区分	事務所					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					B+	
①	CO2削減					4	
②	みどり・ヒート アイランド対策					2	
③	建物の断熱性					5	
④	エネルギー削減					4	
⑤	自然エネルギー直接利用					—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—

エネルギー消費量の報告

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.8	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	1.0	2
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価	2.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価	3.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	5.0	5
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	3.8	4
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	3.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	報告しない

その他

	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		